

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

学校名【愛知県立知多翔洋高等学校】

1 実践テーマ	【Ⅲ、Ⅴ】
2 実施対象者	3年生 スポーツ科学系列選択者（22名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（学校設定科目「スポーツB（集団スポーツ）」） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) 将来的に体育的活動に携わる生徒（スポーツ科学系列選択者）に対して、パラスポーツへの関心・理解を深めさせる。 (2) パラスポーツを実践させることにより、生徒における、インクルーシブな社会づくりへの理解と意識の向上をはかる。 (3) 東京オリンピック・パラリンピックへの関心を高める。 (4) 校内における、今後のパラスポーツ関係指導の基礎とする。
5 取組内容	講義1（被服教室） 12:30～ ・講義DVDによるパラリンピックの紹介（本講教員） 講義2 「スポーツの可能性」 講師：日本福祉大学 スポーツ科学部准教授 三井 利仁先生 (1)障害者スポーツの意義 (2)障害者スポーツの歴史・パラスポーツの生まれた経緯 (3)世界におけるパラスポーツと国内との差異 (4)障害者スポーツのすすめ方 (5)パラリンピックの今、2020東京へ



実技（体育館）

「ゴールボール」

(1)ブラインドという競技特性の体験

(2)基本スロー&キャッチ

(3)集団技術と簡易ゲーム



まとめ1（体育館）

- ・意見交換

- ・質疑

まとめ2（後日）

- ・事後アンケート

6 主な成果

生徒の事後アンケートより（複数回答より抜粋）

- ・スポーツは固定観念を捨てれば、様々な考えが生まれ、新たな可能性が生まれてくることを知った。

- ・パラスポーツは障害を持った人たちにとってはもちろんだが、健常者に対しても大きな勇気を与えるものと思った。

- ・アダプテッドスポーツは、ルールを人に合わせるものではなく、ルールを人に合わせれば良いものであることがわかった。

- ・「失ったものを数えるな。残された機能を最大限に生かせ。」この言葉はパラスポーツや福祉関係だけでなく、日常生活においてもポジティブな考えになる言葉だ。

- ・2020東京オリンピック・パラリンピックへの注目を機に、日本の町作りが障害者に対して、優しいものになってほしい。

- ・2020年では、世界中の多くの国から、体に不自由な方が来られると思う。日本人としての温かな心で迎えてほしい。 など

7実践において工夫した点（事業の特色）

- ・本校は総合学科として「スポーツ科学系列」をもつ。所属の生徒はリハビリ関係など、卒業後、障害者関係に進む者も多く、障害者のスポーツを理解しておくことは非常に重要である。この事業による指導が、実効的なものとなることを期待し計画した。

- ・指導が、通常の授業の延長に陥らないよう、専門的な外部指導者を招聘した。また、近隣の大学（日本福祉大学）にパラスポーツの優れた指導者がいることに着目した。

8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none">・今回は非常に充実した事業となったが、対象の生徒数が多くなかった。また今後も、同方法では多人数による実施は不可能なことが考えられる。・講師依頼・物品購入等のための予算が当初より配分されていると、企画が計画しやすかった。今回は日本福祉大学の好意により実現できた。
9 来年度以降の実施予定	<ul style="list-style-type: none">・上記8の2番目の理由により、未定